

労働経済 II*

中間レポート

学籍番号： _____ 名前： _____

提出期限：2025 年 5 月 29 日（火） AM11:00

- (1) 一般的技能の蓄積と、企業特殊的技能の蓄積のどちらが労働者にとって望ましいと考えられるだろうか。また、企業にとっては、どちらが望ましいと考えられるだろうか。それぞれ理由とともに答えよ。

- (2) 年功序列賃金体系が能力・成果主義賃金体系と本質的には切り離すことができないものである理由を説明せよ。

- (3) 効率賃金仮説とは何か、説明せよ。

- (4) 企業の労働保存とは何か、説明せよ。また、企業が労働保存を行うメリットを答えよ。

* ogisu@konan-u.ac.jp

(5) 労働需要量を L^D 、労働供給量を L^S 、賃金を w としする。以下の問に答えよ。

(a) 労働供給関数が次の通りであるとするとき、逆労働供給関数を求めよ。

$$L^S = -4 + \sqrt{w + 4}$$

(b) 労働需要関数が次の通りであるとするとき、逆労働需要関数を求めよ。

$$L^D = -16 + \sqrt{856 - 2w}$$

(c) 縦軸に賃金 w 、横軸に労働供給量 L^D, L^S をとった平面に、労働需要関数、労働供給関数を図示せよ（どちらが労働供給関数で、どちらが労働需要関数を表すか明示すること）。また、均衡において実現する賃金 w^* 、労働量 L^* を求めよ。（ $L^* \geq 0$ に注意せよ）

(d) 最低賃金 w_{\min} が $w_{\min} = 186$ と設定されたとき、実際に雇用される労働量を求めよ。また、このとき発生するのは労働の超過需要か、超過供給か、答えよ。

(e) 最低賃金 w_{\min} が $w_{\min} = 186$ から 117 円に引き下げられた。このとき実際に雇用される労働量を求めよ。

(6) 失業者の数を U 、就業者の数を E 、労働者の数を L とする。このとき、次の問いに答えよ。

(a) 離職率が s であり、就職率が f であるとき、自然失業率を求めよ。

(b) いま、長期的な不況によって、失業者であった人たちが非労働力となった。その結果、失業者の数が半分になった。離職率と就職率が変化していないとして、この時の自然失業率を求めよ。

(c) 労働者の職探し理論をもとに、就職率を $f = pH(w^r)$ と修正しよう。ただし、 p は労働者にオファーが来る確率、 $w^r \geq 0$ は留保賃金であるとする。また、 $H(w^r)$ は次のような関数であるとする。

$$H(w^r) = \frac{1}{w^r + 1}$$

いま、 $p = 0.4$ 、 $s = 0.1$ であるとき、自然失業率を留保賃金の関数として表せ。また、縦軸に自然失業率 u 、横軸に留保賃金 w^r をとったグラフを書け。

(d) (c) の状況下で、 $w^r = 1$ であったとする。このときの自然失業率を求めよ。

(e) (d) の状況下から、失業給付が拡充されたとする。自然失業率がどのように変化すると考えられるか、答えよ。

(7) 欠員率を v 、失業率を u として、ベバリッジ曲線が図 1 に表されている。以下の問に答えよ。

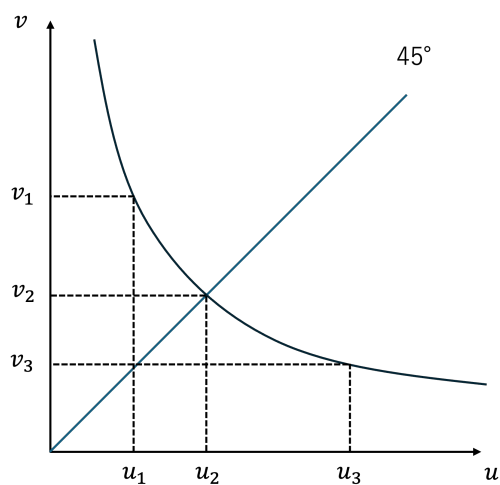


図 1: ベバリッジ曲線

(a) 失業率と欠員率が (u_1, v_1) であるとき、 (u_2, v_2) 、 (u_3, v_3) であるときのそれぞれについて、ミスマッチ失業および需要不足失業の大きさを読み取り答えよ。

(b) 失業率と欠員率が (u_1, v_1) であるときと、 (u_3, v_3) であるときでは、どちらが経済が好況であると考えられるか。理由とともに答えよ。

(c) いま、労働者の就職訓練プログラムが拡充されたとする。このとき、ベバリッジ曲線がシフトするか、またシフトするとしたらどの方向へシフトするか。理由とともに答えよ。

- (8) 労働者の労働供給選択モデルを考える。労働者は可処分時間 1 を労働 (h) と余暇 (ℓ) に振り分ける。労働者の効用関数が、消費 c と余暇 ℓ の関数として次のように与えられている。

$$u(c, \ell) = \frac{c^{0.4}}{0.4} + \frac{\ell^{0.4}}{0.4}$$

労働以外に所得が無いとしよう。

- (a) 賃金率を w として、労働者の予算制約式を書け。

- (b) 労働者の消費の余暇に対する限界代替率 (MRS) を求めよ。

- (c) 労働者の最適化条件から、労働供給関数を計算せよ。またその労働供給関数を、縦軸を w 、横軸を h とした平面に図示せよ。

- (9) 企業の最適化モデルを考える。企業は労働力 L および資本 K を用いて生産物を Y 単位だけ生産している。企業の生産関数が次のように与えられているとする。

$$Y = F(K, L) = 2(K^{0.5} + L^{0.5})$$

賃金率を w 、利子率を r として、以下の問いに答えよ。

(a) 労働の限界生産性 MP_L を求めよ。

(b) 資本の限界生産性 MP_K を求めよ。

(c) 企業の最適化条件から、短期の労働需要関数を計算せよ。

(d) 企業の最適化条件から、長期の労働需要関数を計算せよ。

(e) 利子率が上昇したとき、長期の労働需要関数および短期の労働需要関数のうち、変化するのはいずれか。変化に違いが発生する理由とともに答えよ。